

公立大学法人金沢美術工芸大学
平成30年度 業務実績評価書

令和元年8月

金沢市公立大学法人評価委員会

目次

I	評価方法.....	1
1	評価の構成.....	1
2	項目別評価.....	1
	ア 法人による自己評価	
	イ 評価委員会による評価	
3	全体評価.....	2
II	評価結果.....	3
1	全体評価.....	3
2	項目別評価.....	4～9
	第1-① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）	
	第1-② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）	
	第1-③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）	
	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標	
	第3 財務内容の改善に関する目標	
	第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	
	第5 その他業務運営に関する重要目標	

I 評価方法

1 評価の構成

「項目別評価」及び「全体評価」による。

2 項目別評価

ア 法人による自己評価

法人が作成した年度計画の最小単位の項目（以下「小項目」という。）ごとに、法人自らが、その進捗状況を次の4段階の評価区分により、判断理由を付して評価する。

※ 年度計画の大項目第6から第10に関しては業務実績のみのため記載省略

【評価基準】

評価区分	評価内容
Ⅳ	年度計画を上回って実施している
Ⅲ	年度計画を十分に実施している
Ⅱ	年度計画を十分には実施していない
Ⅰ	年度計画を実施していない

イ 評価委員会による評価

(7) 評価委員会は、法人が行った自己評価の結果について妥当性を確認し、法人と評価の結果が異なる場合は、評価が異なる理由を示すものとする。

(4) 評価委員会は、(7)の評価結果を踏まえ、法人の業務実績を総合的に検証し、中期目標の次の大項目（大学の教育研究等の質の向上に関する目標については、中項目）ごとに、その進捗状況を次の5段階の評価区分により評価するとともに、特筆すべき事項や改善が望まれる事項についてコメントを付す。

年度計画	大項目（中項目）
第1	① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （教育に関する目標）
	② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （研究に関する目標）
	③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （その他の目標）
第2	④ 業務運営の改善及び効率化に関する目標
第3	⑤ 財務内容の改善に関する目標
第4	⑥ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標
第5	⑦ その他業務運営に関する重要目標

※（ ）内は中項目

【評価基準】

評価区分	評 価 内 容
S	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある ※ 評価委員会が特に認める場合
A	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる ※ 評価委員会の小項目別評価が全てⅣまたはⅢ(注)
B	中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる ※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割以上(注)
C	中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている ※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割未満(注)
D	中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある ※ 評価委員会が特に認める場合

(注)評価区分は目安であり、社会情勢等の変化による進捗の遅れや、小項目の比重を考慮して評価委員会で判断

3 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について記述式により評価する。なお、評価を通じて得られた大学運営に関する課題や改善事項等についても、併せて記載するものとする。

また、評価制度が大学運営の検証という役割に加えて、大学の活動状況を市民に公表する役割も担っていることから、大学の特色ある取り組みや工夫等については、積極的に評価するものとする。

II 評価結果

□ 全体評価

年度計画に定めた全ての項目が着実に実施され、項目別評価においても全項目がA評価（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）となっており、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

第2期中期目標期間の3年目となった平成30年度も、業務内容を充実させるために積極的に取り組む姿勢が随所に見受けられた。

特筆すべきは、カリキュラムポリシーに掲げる事項を踏まえた教育課程の更なる強化のため、「新キャンパス配置検討ワーキンググループ」を学内に立ち上げたことである。このワーキングにおいて、領域の横断化の実現、学部・大学院を通した汎用的能力の涵養を目的に、美術系大学では全国的にも珍しい大規模な「共通工房」という新たな構想について、その連関性や配置などのあり方の検討を開始した。

このほか、以下に大学の特色ある取り組みや工夫等として評価できるものを挙げる。

- ・大学の教員研究として、金沢美術工芸大学アートプロジェクトチーム「スズプロ」を結成し、作品の制作を通して芸術文化の活性化による地方創生を目指すとともに、豊かな自然環境と人情味あふれる民俗文化が残る奥能登地域の特色をアートで表現する研究に取り組んだこと。具体的には、珠洲市との連携協定に基づき、奥能登国際芸術祭において制作したプロジェクト作品が飯田地区の明治期に建てられた古民家にて保存されることが決定したことから、この作品の更なるPRを目指し照明などの整備を行ったほか、定期的な特別公開により、国内外に対して美大の力を発信したことで、文化財としての価値を有する古民家を活用しつつ、そこに歴史的記憶を現代アートで表現する研究が高く評価された。
- ・柳宗理デザイン研究所において、寄託作品調査の基盤情報を柳工業デザイン研究会と協働で整備、共有を進める一環として、柳宗理の著作目録、作品目録、年譜のデータベースを取りまとめ、その成果をホームページで公開したほか、デザイン教育の一環として講演会や企画展を効果的に実施したこと。具体的には、本学と柳宗理との関わりを広く国内のデザイン史に位置付けて紹介する市民向け講演会「柳宗理と松村硬質陶器」「今、陶磁器デザインがおもしろい！」「線がうまれる時」「鈴木啓太の線」を開催するとともに、柳宗理の松村陶器に関する調査研究を進め、その成果を研究所において公開展示した。併せて、東アジア文化都市2018金沢と連携し、11月15日から25日まで金沢21世紀美術館において「柳宗理デザイン くらしとかたち展」を開催し、寄託資料7,000点の中から厳選した1,000点を市民等に初めて公開することで、現代に息づく製品デザインのベースを学ぶ機会を提供した。

□ 項目別評価

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の 49 の小項目のうち、Ⅳ評価（年度計画を上回って実施している）が 7 項目、Ⅲ評価（年度計画を十分に実施している）が 42 項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ ディプロマポリシーに掲げる学修成果の達成のため、教養科目として「キャリアデザイン」及び「金沢の文化行政」を令和元年度より新設することを決定したこと。
- ・ 「フレッシュマンセミナー」に実務経験が豊富な講師を加え、生涯学習支援に従事している講師を「生涯学習概論」に新たに招聘するなど、現場のあり方を学ぶ環境を整えたこと。
- ・ 大学の有するデザイン力を活かし、企業や地方公共団体との連携による産学連携事業を 10 件、地域連携事業を 17 件受託し、その成果についても社会から高い評価を得たこと。
- ・ 卒業・修了の確定した全学生に対して大学教育全般についてのアンケートを実施し、80%以上という高い回収率で結果の分析・検証を行い、様々な教育環境の改善を行ったこと。
- ・ 大学院改革に伴い、従来は任意であった採用後の大学院指導資格審査を全教員に受けさせたうえで修士課程と博士後期課程における指導資格を決定することで、指導体制の厳格化を図ったこと。
- ・ 学生が美術に親しむ機会を充実させるため、新たに金沢 21 世紀美術館にキャンパスメンバーズ制度の創設を働きかけるとともに、全国初となる加入を決定したこと。
- ・ 学生からの要望を取りまとめ、その対応策について学生自治会執行部と意見交換を行った結果、駐輪場の拡充、美大ホール前の外灯の増設及び彫刻専攻教室内の空調設備設置などの環境改善を行ったこと。

2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の14の小項目のうち、Ⅳ評価が4項目、Ⅲ評価が10項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 「平成の百工比照収集事業」において、4K画質による記録映像資料を制作し、伝統技術の保存に関する研究を行った他、国立民族学博物館と連携した展覧会の開催や市内での同展の一部巡回展示及びワークショップの実施等により、地域における美術系の文化水準の向上に大きく寄与したこと。
- ・ 「奥能登国際芸術祭2020」を見据え、奥能登国際芸術祭実行委員会及び金沢21世紀美術館との間で3者協定を締結し、更なる教育の場の広がりや地元との相乗効果を目指す研究活動に繋がったこと。
- ・ 東アジア文化都市2018金沢と連携し、日中韓・国際シンポジウム「工芸×暮らし」を開催することで、各国の工芸の意義と美術系大学の役割や今後の生活空間における工芸のあり方について議論を深め、国際的に高い水準の研究を一層推進したこと。

3 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の16の小項目のうち、Ⅳ評価が4項目、Ⅲ評価が12項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 金沢市と連携した「市庁舎前デジタルサイネージ時報コンテンツ」や「まちなかアートベンチ」等で、市民が楽しめる新しい取り組みに深く関わり、来街者の視覚にも訴える試みを手掛けるなど、社会連携センターにおいて大学が取り組む意義の有無を精査した上で、様々な社会連携事業を実施したこと。
- ・ 大学進学に関する意識向上を図るため、新たに金沢市立工業高校と連携し、高大連携推進事業に取り組んだ結果、同校からの入学者に繋がるなど一定の成果が得られたこと。
- ・ 中国の大連工業大学に初めて教員と学生を派遣し交流を行うとともに、新たにアジア圏の大学との交流協定を締結するための取り組みを行うことを決定し、翌年度予算に反映したこと。
- ・ 研究生の受入れに際し、担当教員が「研究指導計画書」を作成して指導を行うとともに、研究生が研究期間修了時に提出する作品又は論文の評価においても「研究生作品又は論文等判定結果報告書」の提出を義務付けるなど、研究の指導内容及び評価の透明化を図り、外国人留学生に対する教育の質の向上に努めたこと。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の15の小項目のうち、Ⅳ評価が3項目、Ⅲ評価が12項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 学長裁量経費の確保のもとで、ガバナンス体制や指揮権の強化を図り、大学院専任教授制度を見直すとともに、客員教授の拡充や新キャンパスにおける配置計画の決定など、教育研究活動の質の保証・向上に取り組んだこと。
- ・ シラバスのウェブ化や学割証明書の自動交付機の導入等により、経費削減、学生の利便性向上及び職員の業務負担の軽減に寄与したこと。

5 財務内容の改善に関する目標

評価	A (中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる)
----	------------------------------

年度計画記載の 12 の小項目のうち、Ⅳ評価が 4 項目、Ⅲ評価が 8 項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 文部科学省科学研究費補助金の公募に 9 件、三谷研究開発支援財団の公募に 2 件、科学技術振興機構の戦略的研究推進事業（さきがけ）、石川県博物館協議会奨励研究、文化庁文化芸術による子供の育成事業、(公財)博報児童教育振興会研究助成にそれぞれ 1 件の合計 15 件の新規申請を行い、既採択の継続 6 件と合わせて 21 件の事業の獲得に取り組んだこと。
- ・ これまでの社会連携事業を通して連携を深めてきた企業への働きかけを継続する一方、新規の問合せ企業に対しては実績をまとめた報告書を用いて PR 等を行うなど、外部資金の獲得に努めた結果、産学連携事業を 10 件、地域連携事業を 17 件受託し、34,038 千円の受託研究収入を計上するなど、当初見込の 16,000 千円を大幅に上回る収入を得たこと。
- ・ 非常勤講師の各専攻間への配分を学長裁量のもと見直したうえで更なる透明化を図るため、学生定数を基に配分する方法にルール化するとともに、各専攻との事前協議を行うことにより、教育経費と連動させた人員配置となるよう見直したこと。
- ・ 金沢市と連携し、市庁舎に大学の卒業・修了優秀作品 11 点を恒久的に展示することで、市民が芸術に親しみ、心を和ませる憩いと潤いの空間を創出するとともに、所蔵品の有益な活用を図ったこと。

6 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の5の小項目のうち、Ⅳ評価が1項目、Ⅲ評価が4項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ オープンキャンパスにおいて、受験生からの意見を反映し全体説明を各専攻での説明に変更するとともに、学生スタッフからの要望が多かった学内マップ・案内サインなどの整備をし、過去最多の1,950人の来学者があったこと。

7 その他業務運営に関する重要目標

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の17の小項目のうち、Ⅳ評価が1項目、Ⅲ評価が16項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 内部統制規程の制定をはじめ内部監査規程及び情報セキュリティーに関する規程等を策定し、大学運営のリスク管理に関する体制を強化したこと。